

「平成28年度 社会人基礎力白書」まとめ

平成27年9月30日に実施したアンケート調査の結果、就職を控えた大学生及び企業へのアンケートから社会人基礎力について以下の内容が理解されました。

学生の予想による「企業が求める新卒入社時に身に付けておくべき社会人基礎力」は、第1位「主体性」、第2位「実行力」、第3位同率で「柔軟性」、「規律性」でありましたが、企業側の考えは、第1位「主体性」、第2位「課題発見力」、第3位同率で「実行力」、「柔軟性」となりました。学生はほぼ正確に、企業がどのような社会人基礎力を優先しているかを予想していることがわかりました。その反面、学生の回答による「社会人基礎力12要素」のうち、あなたが現時点で身につけていない力・弱み」についての結果では、身につけていない力の第4位に「主体性」がランクされており、予想はしているが未だその力の不足を自覚していることが理解されます。昨年と同様の結果ですが、やはり、学生は入社後3年間は仕事への取り組みを通して「主体性」という能力の開発に尽力するということが大切なテーマとなると考えられます。総合的に結果をみていくと、平成28年度報告内容の傾向として、学生は「チームで働く力」の要素に多いどちらかという受動的な場合の社会人基礎力に長けている反面、「前に踏み出す力」の3要素や、お手本が参考にならない「考え抜く力」の中の「創造力」、「チームで働く力」の中でのリーダーシップに係る力である「発信力」に弱いことが判明します。いわゆる、「経営者・経営層」に必要とされる力の不足が感じられますので、就業後に是非ともリーダーたるに必要な社会人基礎力の養成に努めていただければと考えます。

企業が求める人材は、経済状況・業種・個別企業等で様ではなく、就職活動に当っては、希望する企業がどんな人材を求めているのか、事前に情報を把握して極力ミスマッチの無いように努めることが重要です。企業風土の違いは歴然としています。是非、緻密に研究されることをお勧め致します。

当法人は国立大学法人小樽商科大学の推進するキャリア開発教育に対し、同窓生のネットワークや人材、その関連企業等を活用して積極的に支援しております。とりわけ大学の正課科目であるエバーグリーン講座においては、実業界で活躍中あるいは現役を終えた同窓生を講師として派遣し、実務経験を基にした講義によって社会人基礎力の啓蒙、養成への支援を行っております。このような同窓先輩の講義が学生に対する社会人基礎力レベルアップの動機付けになることは間違いありません。今後も当法人は、大学のキャリア開発教育に対する支援及び就職支援活動を通じて得られた社会人基礎力に関する情報を大学側と協力して調査分析し、公開していく所存であります。何卒関係各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

なお、本白書の作成に当っては国立大学法人小樽商科大学 商学部社会情報学科准教授 大津 晶氏に多大なご協力を頂きました。大津准教授は小樽商科大学教育開発部門長の任にあります。大津准教授より次ページ以降に小樽商科大学におけるキャリア開発の現状及びエバーグリーン講座受講学生に対する社会人基礎力に関する調査、アクティブラーニングによる教育効果についてご寄稿頂きました。誠に有難く厚く御礼申し上げます。

アンケートにご協力頂いた企業の中で、
情報公開にご同意頂いた企業が、
新卒時に求める社会人基礎力の
優先順位をご紹介します。

※順不同にて掲載

「株式会社ケイシイシイ」

採用時の優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	実行力
第3位	傾聴力
第4位	発信力
第5位	規律性
第6位	課題発見力
第7位	働きかけ力
第8位	創造力
第9位	柔軟性
第10位	計画力
第11位	ストレスコントロール力
第12位	状況把握力

入社後3年程度の間に伸ばすべき力	主体性
	課題発見力
	傾聴力

「北海道信用農業協同組合連合会」

採用時の優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	実行力
第3位	規律性
第4位	柔軟性
第5位	傾聴力
第6位	状況把握力
第7位	ストレスコントロール力
第8位	計画力
第9位	働きかけ力
第10位	発信力
第11位	課題発見力
第12位	創造力

入社後3年程度の間に伸ばすべき力	主体性
	課題発見力
	発信力

「北海道漁業協同組合連合会」

採用時の優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	実行力
第3位	課題発見力
第4位	状況把握力
第5位	ストレスコントロール力
第6位	計画力
第7位	働きかけ力
第8位	発信力
第9位	柔軟性
第10位	規律性
第11位	創造力
第12位	傾聴力

入社後3年程度の間に伸ばすべき力	課題発見力
	柔軟性
	状況把握力